



天候による農作物の被害の多くは、気象予報等により事前に防ぐことができます。

天気予報に注意して下記の基本的な被害対策を確実にを行い、被害を最小限にとどめましょう

対策

(1) 水稲

ア 水田の停滞水は速やかに排水に努める。

イ 成熟に達して倒伏している稲は、出来るだけ早く刈り取り品質の低下を防ぐ。

(2) 施設野菜

ア トマトの葉かび病、灰色かび病、キュウリのべと病、褐斑病等が発生するので、適用薬剤を散布する。なお、薬剤散布にあたっては、作物が軟弱に生育しているので薬害の発生に注意し、散布は日中の高温時を避けて、朝夕の涼しい時間帯に行う。

イ 汚れている被覆資材は洗浄して光線の透過率を高めるとともに、日中は換気を図り高温多湿条件による軟弱徒長を防止する。

ウ 曇雨天日が続いた後に急激に天候が回復し、強い日射を受ると葉焼けや石灰欠乏症状等が現れることがあるので、かん水や一時的な遮光などによる適正な温湿度管理を行い、障害防止に努めましょう。

(3) 露地野菜

ア 降雨が続く場合は、ほ場に排水溝を設置し、湛水による病害発生を防止する。また、生育中のものは、天候が回復したら畦間を軽く中耕して、根部への酸素の供給を図る。

イ 風雨等によって葉が傷ついているので病気の対策として殺菌剤を散布する。

(4) 共通

ア 畑の停滞水は速やかに排水に努める。

イ ここ数日天候不良の為茎葉の生育が軟弱徒長となって、草勢が低下している作物は、晴れた日にリン酸、加里、微量元素などの成分を含んだ液肥の葉面散布や、速効性肥料を少量ずつ追肥して、草勢の維持、回復に努めましょう。